校訓	自分を育て 自分を生かし 社会を明るく	令和2年度　学校だより	発行日	令和3年1月6日
教育目標	夢と誇りのある生徒の育成 ～自分の意志・判断で自ら責任をもち行動する態度を育てる～	「天の子」 第17号	発行者	伊丹市立天王寺川中学校 校長　前田 徳三

【あけましておめでとうございます】

『新(あらた) しき年の初めの初春(はつはる)の今日降る雪のいや重け吉事(よごと)』　大伴家持

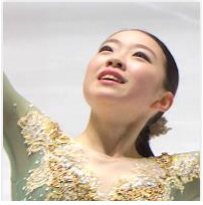
あけましておめでとうございます。今年も「自分を育て自分を生かし社会を明るく」の校訓のもと、学校教育目標である「夢と誇りのある生徒の育成」に努め、授業や行事、部活動の充実を図り、子どもたちが自分の意志・判断で、責任を持ち行動する態度を育ててまいります。引き続き、本校の教育活動に温かいご理解とご支援をいただきますようよろしくお願いいたします。

さて、文頭の歌は、大伴家持が「万葉集」の編集を終えるにあたって、この一首を最後に据えられました。この歌集が永遠に伝わるように好運をもたらすと信じられていた雪の風景を詠んだ歌です。意味は、「新しい年のはじめの新春の今日を降りしきる雪のようにいっそう重なれ、吉き事よ。」です。年末・年始はとても寒く各地で、大雪に見舞われました。今年も天中生をはじめ、本校に関わるすべての人たちが大過なく健やかで過ごせる１年になりますように、また、受験を控えた３年生をはじめ、本校の子どもたちが抱くたくさんの夢が実現できればと祈念いたします。

【尽己竢成】

尽己竢成(じんきしせい)とは、柔道の創始者嘉納治五郎(かのうじごろう)先生が言われた言葉です。「己を尽くして成るを待つ」という意味です。「人事を尽くして天命を待つ」という言葉と似ていますが、この言葉が受動的なのに対し、「尽己竢成」には「成すまで努力をし続ける」という能動的な決意が込められています。

「己を尽くして成るを待つ」ということは、不断の努力を続けた先に、必ず目標は達成されるという意味が込められています。『①体を鍛え、心を鍛え、技を磨く。②知識を付け、知恵と創造力を働かせ、感性を磨いて創造する。③己を磨き続けた先に、必ず目的・目標の達成、成功が待っている。幸運の扉を開くということは、ただ何もせずに待っているのではなく、努力をし続けることが必要である。力を尽くし切っていないのに失敗を運のせいにしてはいけない。幸運を望む前に、まず自分の力を尽すことが大切である。』ということです。



年末に、生徒指導の半田先生とともに、伊丹市教育長に１年間のお礼のため訪問させていただきました。その折、木下教育長から、「全日本フィギュアスケート選手権大会で、優勝された羽生 結弦選手、紀平 梨花選手を例にしてお話をいただきました。優勝された羽生選手、紀平選手はただ優勝を狙った

のではない。ひとつ上を目指して高難度の技にチャレンジしていた。何事も今に満足することなくあの姿勢を学んでチャレンジしてもらいたい。」とご教示いただきました。この１年、本校も職員一丸となって、活力ある学校づくりを目指し、更なる向上、発展に努めてまいります。生徒のみなさんも、しっかりと目標を定め、さらに勤勉と辛抱を怠らず、目標実現に向けて頑張ってください。

【門松】

今年も、技能員の重松さん、川本さんに門松を作製していただきました。昔から、お正月には年神様が各家庭へ訪れると言われています。門松とは『年神様が降りてくる目印』として飾ります。１年間、災厄を払い、幸運や健康長寿を願うものと考えられています。是非、玄関の門松を見に来てください。

【よく見れば薺花咲く垣根かな】

第一高等学校（現：東京大学教養学部）校長、文部大臣等を歴任された安部能成（あべよししげ）先生（明治16年～昭和41年）が言われた言葉です。２学期の終業式で、みなさんに冬休み１冊以上の本を読んでくださいと言いました。私は安倍先生の本を読み、調べました。理由は、戦後、マッカーサー率いるＧＨＱが、第一高等学校をＧＨＱのために使用しようと考え、学校に来た時、その時に校長であった安倍先生が悠然と一人で、その占領軍に対して、「この一高はリベラルアーツの学校である。リベラルアーツとは人類が残してきた芸術、文化、学問のことであり、ここはその偉大な遺産を次の世代に伝える sacred place（聖なる場所）だ。そこを占領などという vulgar （世俗的） な目的のために使わせるわけにはいかない」と言って、占領軍を追い返されました。

また、文部大臣の時には、アメリカの教育使節団が来日された時に感動的な挨拶をされました。アメリカは当時、日本政府に対して大変厳しい要求をしていました。安倍先生は、「日本は過去における占領政策において極めて多くの失敗をした。その国の伝統と実情を無視し、自分勝手な政策を力によって強いたからだ。米国は日本が犯したのと同じ間違いを繰り返さないでほしい。」と言われたのです。会場は割れんばかりの拍手で、使節団の団長は壇上に飛び上がって安倍先生に握手を求めたそうです。その当時、このような強い信念や勇気を持ち、ＧＨＱに対して言い切ることができたのはなぜだろうかと、以前から興味を持っていた安倍先生の本を冬休みに読み、調べ多くの学びを得ることができました。

また、「よく見れば薺（なずな）花咲く垣根かな」という句がありました。この句は、天の与える所、自分の努力によって精一杯力を発揮することは、天才にも凡才にも許されることである。また、牡丹（ぼたん）を羨（うらや）まないとともに薺（なずな）を恥じない。本人はご自身を薺に例えられていました。薺は別名「ぺんぺん草」と呼ばれ、田畑や荒れ地、道端など至るところに生え、春から夏にかけて白い花と三角形の果実をつけます。どこでも生える雑草です。春の七草の一つでもあります。牡丹はとても綺麗な花です。この句から『牡丹には牡丹の、薺には薺のいいところがある。一人ひとりがかけがえのない存在である。』と記されていました。私自身とても勉強になる一冊でした。